

紫文製錦
三



五六
五册之内

文庫

紫文齋錦三書目錄

意部

始言意 <small>學</small>	通書意 <small>日</small>	竹意 <small>二十</small>	逢意 <small>日</small>	子意 <small>六</small>
由意 <small>八</small>	見意 <small>十</small>	增意 <small>十三</small>	契意 <small>日</small>	恨意 <small>日</small>
思意 <small>十六</small>	切意 <small>十七</small>	悔意 <small>二十</small>	福意 <small>廿一</small>	疑意 <small>廿三</small>
難忘意 <small>廿五</small>	過門意 <small>廿六</small>	幼意 <small>日</small>	歌意 <small>廿七</small>	尋意 <small>廿九</small>
朔意 <small>日</small>	夕意 <small>三十</small>	夜意 <small>廿一</small>	書意 <small>廿二</small>	友意 <small>廿三</small>
秋意 <small>廿七</small>	冬意 <small>日</small>	報意 <small>廿九</small>		



紫文製錦三卷

安藝 源 稻彦 撰

恋部

始言恋

初條廿一少保成之初
親心もゆるまかけておすれがこきにたぐさむおし
かてすぎほるまはかて身守るはるまよとの
思をなほおえさうあはまきけれさうもむ
かよひさういほまおしあつれは女かやうよもなむ

たまはざりしるも。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。
さまにて。

玉のうらな

袖うらな 香たけなをよめる。かみもよめる。たけなもよめる。かみもよめる。
なりも社やしろすれ。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。
いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。
身みなりもいふも。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。
くもいふも。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。
おもひもいふも。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。

通書とんしょ

二三日ふたみかたては。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。

あそれなり。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。
おもひもいふも。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。
おもひもいふも。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。

待急まちきゆう

いかにいかにおもひもいふも。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。

いかにいかにおもひもいふも。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。
いかにいかにおもひもいふも。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。
いかにいかにおもひもいふも。いふもいふも。いふもいふも。いふもいふも。

いふとちげん

世が^{まじ}あつた人々もいふ人なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ
愛になむとていふやうなうた^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}
わりのかたけな。今ぬ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}
かきあつた^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}
くしあつた。

花宴 四下
おれいふとちげんは^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}
あがれ。後まゝかへ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}
に。月いふとちげんは^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}
源氏様きみ

あつた^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}
のまじ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}
と。いふとちげんは^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}
あつた^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}
まじ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}
は^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}
くす^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}
おれいふとちげんは^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}なむ^{まじ}

ゆひはまろあわじ。女はまてさまへと思
む。だれしきけ。きなり源氏君なつ。なのつ。あひく。そ
うき。あひびき。かうそ。やえなんせい。きうと。おが。あひ。だ
なごの。まへ。ば。

朧月夜

うき身世よ。やがて。きな。ば。あて。も。草。け。つ。を。い。と
は。い。と。や。お。も。よ。と。よ。き。ま。え。ん。な。ま。め。さ。た。の。つ。と。わ
る。や。き。あ。い。た。が。へ。た。る。と。ど。か。な。

源氏君

い。れ。ぬ。と。あ。は。や。ぢ。り。を。わ。か。し。ま。よ。い。せ。つ。つ。ふ。ふ
風。と。社。あ。け。わ。づ。つ。り。う。お。が。す。と。な。ま。は。な。ま。り

は。く。ま。む。も。一。が。む。め。よ。う。の。こ。も。あ。ひ。び。人。と。あ。死
さ。が。た。と。け。は。つ。つ。の。ひ。ま。め。の。ち。が。い。せ。き。さ。と。あ。け。く
ま。よ。い。は。い。と。わ。り。な。て。扇。ぢ。り。を。あ。か。い。に。ぢ。り。か。へ。て
出。あ。む。ぬ。

賢木十九下

○またんれ。あ。ぢ。り。け。い。ぢ。め。ま。て。つ。あ。み。お。け。ま。い。を
ま。と。う。が。む。て。倒。れ。あ。は。や。ぢ。り。に。あ。い。ま。い。か。れ。む。か。い
か。ぢ。り。た。る。お。そ。ぎ。の。つ。わ。の。ひ。よ。中。納。言。け。あ。ま。ま。ご。う
を。い。れ。た。て。ふ。け。う。た。り。人。め。あ。ぢ。り。き。け。な。け。ば
は。く。の。よ。り。お。け。ぢ。り。な。る。と。う。う。か。う。り。う。お。が。い。物

いふよんしてまはる人いふあなはさまがしんがしん
てめはしんがしんがやまのいふあなはしんがしんがしんが
ろかなしんがしんが

明石 三十三丁
かたはるるるあなはしんがしんがしんがしんがしんがしんが
ろかなしんがしんがしんがしんがしんがしんがしんがしんが
いふようめいようめい

別恋

第本四十三丁
身も志ばしんがしんがしんがしんがしんがしんがしんがしんが

ほれなきはうらみをとてぬ徳目よりのあつぬまで

三

おどろかすまじ

又三十一丁

おどろかすまじ
たげなるけいしんがしんがしんがしんがしんがしんがしんがしんが
おどろかすまじ
らむあなはしんがしんがしんがしんがしんがしんがしんがしんが
本おどろかすまじ
らむあなはしんがしんがしんがしんがしんがしんがしんがしんが

やかたはたせむたかたのふりてふりてふりてふりて
 らむのふりてふりてふりてふりてふりてふりて
 てふりてふりてふりてふりてふりてふりて
はたせむ
 けむのふりてふりてふりてふりてふりてふりて
 のふりてふりてふりてふりてふりてふりて

中絶

朝きりけられまはれけりてふりてふりてふりて
 けむのふりてふりてふりてふりてふりてふりて
賢木セテウ
 女もえりてふりてふりてふりてふりてふりて

三

不れ見たてまはれけりてふりてふりてふりて
 けむのふりてふりてふりてふりてふりてふりて
 はたせむのふりてふりてふりてふりてふりて

総角五十二

けむのふりてふりてふりてふりてふりてふりて
 あむのふりてふりてふりてふりてふりてふりて
 香なむのふりてふりてふりてふりてふりてふりて

か

けむのふりてふりてふりてふりてふりてふりて
 まむのふりてふりてふりてふりてふりてふりて

おしろいやうに色がわががいのまじりかた

第一巻

少女#五下
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
まじりかたなげにわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた

三巻

又巻
おしろいやうに色がわががいのまじりかた

かた

壁ヤイワ

おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた
おしろいやうに色がわががいのまじりかた

若菜下六十五下

〇のさしなかにいれんあはしむるあまのこころいづ
まはるもそのまゝにわたあそびをさぐりやうあるは
世にまじりまじりかかれまじりいづれもあまの
まゝにまじりて女もかぎりなくあそびをさぐり

洞をさぐりなき袖にせまかひていづれ別をさぐ
べしあそびもいづれもあそびまじりてあまのこころ
かどがまじりしあそびかたあまのこころいづれも
いづれあまのこころかたあまのこころいづれも
もあまのこころいづれもあそびまじりてあまのこころ

三 發

いづれがいづれまじりてあまのこころいづれもあそび

見人恋

あまのこころいづれもあそびまじりてあまのこころ
まわりのあそびで東はまじりてあまのこころいづれも
まじりてあまのこころいづれもあそびまじりてあまのこころ
房あまのこころいづれもあそびまじりてあまのこころ
いづれもあまのこころいづれもあそびまじりてあまのこころ
あまのこころいづれもあそびまじりてあまのこころ
あまのこころいづれもあそびまじりてあまのこころ
あまのこころいづれもあそびまじりてあまのこころ

花は木にちを洗けてなまあやほ大ねいさろーと
にあやかりはるるのまぢかけかぬさびるもや
あついでちあまふ

日百四十四
宰相ははるるのしんまをうけたがら

おがぬもいさまらひがのまをうけたまは

るにもあまひがまをうけたまは

弊うけまをうけたまは

下二十
ろうあつた花のしんまをうけたまは

てまわつたまふ

の六十

〇またあまわがふにもいさけかぬあまはけら

かく中へあまはけらぬあまはけら

あまはけらぬあまはけらぬあまはけら

たあまはけらぬあまはけらぬあまはけら

いでしあまはけらぬあまはけらぬあまはけら

まほりあまはけらぬあまはけらぬあまはけら

あかつりあまはけらぬあまはけらぬあまはけら

はやくあまはけらぬあまはけらぬあまはけら

東屋廿五下
〇あつたあまはけらぬあまはけらぬあまはけら

と。い。ま。は。ま。も。ず。あ。ら。ま。あ。い。て。ま。い。ら。い。に。い。い
な。あ。わ。は。は。は。を。ほ。る。と。今。ま。あ。り。あ。る。か。な。と。お
が。し。て。さ。い。は。ず。さ。あ。な。ら。け。わ。ど。なる。さ。ら。は。お。そ
あ。い。あ。ま。さ。た。る。ま。り。見。あ。へ。い。さ。ら。は。あ。な。た。な。い。ん。バ
かり。を。ま。さ。し。て。屏。風。た。て。た。ら。う。け。つ。ら。い。な。下
す。ま。う。入。く。た。く。ら。か。ら。む。も。と。入。せ。う。あ。か。け。た。お
を。ん。あ。け。花。や。う。なる。に。と。い。な。い。け。あ。り。も。け。と。見
ゆ。か。か。さ。な。り。て。袖。は。さ。い。で。た。り。屏。風。の。を。む。ら
た。く。ま。し。る。ま。り。ふ。に。も。あ。い。ぞ。見。ゆ。な。が。り。い。ま。く

三

あ。り。は。く。ち。を。か。ら。ぬ。な。が。り。と。お。が。し。て。さ。け。む。さ
し。に。か。よ。さ。ら。し。む。と。み。そ。う。お。あ。け。あ。む。て。
や。と。あ。い。さ。ら。あ。い。と。人。あ。い。び。

増

あ。い。さ。ら。あ。い。と。お。も。む。さ。さ。し。け。ら。い。か。ら。い。も。あ。ら
さ。り。け。り。む。と。は。さ。ら。う。う。た。て。あ。る。も。け。い。あ。い。今。い
む。と。教。も。う。だ。て。む。と。は。わ。り。なる。べ。さ。あ。い。お。不
せ。ら。る。
口 四十九丁
か。く。て。む。ち。い。ら。も。い。に。は。院。に。も。あ。か。さ。ま。ま。ま。わり

たまつるやげじよ。あけんかく。おとかけに。さきけ
れば。あやうけあやうやとわねな。うが。おがさる。

契恋

相つ屋 十七イウ
朝ゆれ。さき。に。ぬを。な。ぶ。さ。か。は。さ。じ。と。

ち。さ。さ。せ。あ。む。い。ま。な。い。ざ。り。ける。人。余。け。や。ど。ろ。は。き。

せ。び。う。う。あ。い。ま。

夕魚 廿一イウ
〇長生。敷。れ。あ。き。た。り。は。い。へ。く。て。を。ぬ。さ。か。い。え。

や。は。む。さ。か。へ。て。孫。勒。れ。せ。さ。う。か。い。ま。

恨恋

賢木 六イウ
月。も。の。り。あ。る。ま。や。あ。い。れ。な。る。う。を。な。ら。め。つ。う。う。こ。き。

あ。い。ま。い。ま。あ。ら。も。む。あ。は。ち。た。ま。つ。う。い。ま。い。ま。

ね。べ。い。

明石 四十二イウ
〇う。ち。す。て。あ。つ。る。恨。れ。や。う。い。な。ま。に。面。鏡。う。も。て。わ。

す。し。が。い。ま。た。け。こ。も。は。き。を。な。さ。に。あ。げ。あり。

標榜 十三イウ
〇あ。を。れ。な。ほ。し。ゆ。べ。け。け。う。い。や。あ。と。な。ぬ。ま。ま。な。

ら。い。ど。ろ。れ。ま。の。か。い。ち。ほ。れ。う。あ。と。れ。祓。の。な。ま。あ。き。

た。り。し。も。す。べ。て。ふ。と。ま。ゆ。る。さ。ま。ま。の。し。ま。む。い。は。る。よ。と。

わ。れ。は。ま。い。な。く。う。う。か。な。い。せ。あ。も。む。な。げ。さ。う。く。す。

師云。あ。の。下。に。と。
此。二。字。今。も。あ。り。
し。ら。あ。る。う。う。は。あ。
し。せ。は。あ。り。あ。り。
は。く。は。い。が。あ。り。

さびやてもふとわけあひけむよや。たぶなうぶ。あまむ
はぐけられて。これいわれ。やうちうむきながめて。あひ
しなる。せれさまかな。あまむより。とせやうにうちな
げきて。

^{榮上}やうぶらなむくが。いあぶ。ととわれ。げけ。りに
さ。いたらなま。う。た。よ。と。か。や。あ。ら。う。や。

^{保氏君}誰により世を海山は釣あがりた。ぬ洞。う。う。き
あけむ。ぞ。いて。や。う。う。う。う。ん。を。ま。む。ひ。命。う。う。か
な。か。う。う。べ。い。と。れ。な。あ。れ。ち。う。な。ま。き。こ。に。て。む。せ。ま。

三

んかか。り。や。あ。も。も。た。ぶ。む。と。は。ゆ。あ。ぶ。や。と。て。ら。う
れ。あ。ま。む。ち。ん。あ。ま。む。か。ま。あ。い。せ。す。な。む。む。む。て。う。は。が。
ま。こ。う。あ。ん。ど。が。あ。す。が。れ。たり。け。む。た。ね。た。い。に。や。あ。も。も。
れ。あ。ま。む。い。や。あ。は。と。う。に。う。は。く。う。た。を。や。ぎ。あ。つ。ふ
も。れ。か。ら。さ。す。が。に。あ。れ。ま。む。ら。う。け。ま。て。と。ね。む。む
し。あ。ま。む。う。が。な。う。く。あ。い。む。や。う。づ。き。て。を。う。た。ら。な
あ。ま。む。な。あ。う。う。見。や。う。う。あ。の。あ。が。は。し。

^{十一}。す。が。に。ま。か。り。ま。じ。は。い。む。あ。し。あ。し。女。あ。は。え。や。の。な
や。ま。う。く。あ。ま。む。な。う。う。あ。ま。む。う。う。に。なん。と。て。は。

川まのまの。塩やま
ふろ。なれゆはら
ゆの。なま
まの。
なれゆはら。まのま
水や。まのまの
塩やま。まのまの
らん。

いねあつれば。たとや。あまを。び。わく。ぎ。こ。と。も。あ。ま。ま。
ぎ。は。か。を。す。り。う。げ。あ。れ。た。ぐ。な。ぬ。を。あ。や。く。い。
け。し。け。か。り。け。ろ。ろ。か。な。づ。も。な。や。あ。か。や。き。な。れ。
あ。ま。り。あ。な。れ。ま。づ。て。な。く。お。が。さ。る。く。ま。よ。と。て。な。た。あ。
く。と。ま。こ。い。う。な。げ。ま。こ。も。つ。が。い。し。く。う。げ。ま。
う。ま。い。や。あ。か。り。け。し。と。ば。か。り。ま。て。う。ま。う。む。ま。て。よ。
く。も。つ。い。え。す。て。い。で。あ。ふ。ら。あ。う。け。れ。ど。こ。や。に。
な。せ。う。う。こ。同。く。あ。む。て。け。れ。ば。あ。あ。む。ぬ。
夕暮六十一
〇かまこむ。い。づ。も。ぬ。ぎ。あ。ら。て。う。ま。う。も。な。ふ。み。

わりのかき。ひ。た。き。あ。あ。む。め。だ。う。け。ろ。む。け。は。し。て。い。ぞ。
あ。ま。を。か。か。げ。し。見。い。づ。て。あ。れ。む。が。こ。く。な。ま。の。の。出。
くれ。ば。ぬ。ぎ。や。あ。あ。く。む。と。ん。け。袖。を。む。こ。ま。せ。く。
な。ま。い。ま。う。う。み。ん。ふ。ハ。ね。ま。は。あ。ま。は。ら。る。ま。よ。

た。ら。や。か。ま。し。
〇かまこむ。い。づ。も。ぬ。ぎ。あ。ら。て。う。ま。う。も。な。ふ。み。
本。丁。を。す。り。お。い。れ。て。倒。れ。な。ま。く。け。ま。ち。ら。う。き。
よ。う。あ。ら。い。と。く。ま。い。れ。ば。わ。り。な。う。と。あ。が。り。て。あ。れ。
な。み。と。い。く。人。を。ち。か。ら。あ。ま。さ。て。む。の。な。ん。い。し。し。

おどろきのあはれおもひをしるしはひるにさしたるに
しるしをたふしおもとちぢりぬながりのあはれ
とぞうきいそなふ

田舎

世も八十
むきくしのあはれかたににあはれおもひを
おもひのあはれいそなふあはれあはれあはれあはれ
かたのあはれかたのあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

たわぶ又思ひくははるあはれあはれあはれあはれ
いけなやうなるあはれあはれあはれあはれあはれ
かうあはれあはれあはれあはれあはれ

切歌

筆本四十五ノ 伝世の歌をいふとある
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

を見らるゝ人もあはれむと。わが道はかくもさか
 ぬ。いかにいふべきか。いなまづは國が
 此のちのちをわらふをけり。いとせめて
 是れをわらふにあらん。いとせめて
 わるかたき。いとせめて。いとせめて。いと
 けり。いとせめて。いとせめて。いとせめて。
 まはれ。いとせめて。いとせめて。いとせめて。
 ことら。いとせめて。いとせめて。いとせめて。
 らむ。いとせめて。いとせめて。いとせめて。

(かく)に女がはく。いとせめて。いとせめて。いとせめて。
 くと。いとせめて。いとせめて。いとせめて。いとせめて。
 けり。いとせめて。いとせめて。いとせめて。いとせめて。
 あやに。いとせめて。いとせめて。いとせめて。いとせめて。
 や。いとせめて。いとせめて。いとせめて。いとせめて。
 ちは。いとせめて。いとせめて。いとせめて。いとせめて。
 ちは。いとせめて。いとせめて。いとせめて。いとせめて。
 〇は女廿三十一いとせめて。いとせめて。いとせめて。いとせめて。
 いとせめて。いとせめて。いとせめて。いとせめて。いとせめて。
 いとせめて。いとせめて。いとせめて。いとせめて。いとせめて。
 いとせめて。いとせめて。いとせめて。いとせめて。いとせめて。

かゝるにせむいししむいにかゝるあはれなむのよ
もなむらあはれ

白文

なむらあはれなむらあはれなむらあはれ
いよなむらあはれなむらあはれなむらあはれ
よなむらあはれなむらあはれなむらあはれ
にあむらあはれなむらあはれなむらあはれ
なむらあはれなむらあはれなむらあはれ
ふてなむらあはれ

字舟

なむらあはれなむらあはれなむらあはれ

三

とまゝかばもあるが、いふは、うら、うら、思ふ、
かりけりと思ふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

悔意

稻本ニテカ

あはれ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
く、か、け、は、な、い、ふ、ん、命、か、も、な、い、は、い、ふ、
も、あ、は、れ、は、い、ふ、も、い、ま、い、あ、な、あ、い、は、い、
く、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、
い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、
い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、

かりしがどうせんかたむがかりけりやをいふ
 そのぬしをいふやをいふやをいふやをいふ
 かるすがまらうぶをなるとほの世のなをいふ
 かくすいといふやをいふやをいふやをいふ
 あくがしんをいふやをいふやをいふやをいふ
 しまがらうぶをいふやをいふやをいふやをいふ
 せにしまがらうぶをいふやをいふやをいふやをいふ
 身にいふやをいふやをいふやをいふやをいふ
 けうらもてうぶをいふやをいふやをいふやをいふ

けいせいのなをいふ
 けいせいのなをいふ
 けいせいのなをいふ

けいせいのなをいふ
 けいせいのなをいふ
 けいせいのなをいふ

らいせいのなをいふ 神仏をいふやをいふやをいふ
 くれさる(けいせいのなをいふ)とちとせねなぬ
 はづいといふやをいふやをいふやをいふやをいふ
 うちあはなぬ(けいせいのなをいふ)なけなぬやをいふ
 人あはなぬ(けいせいのなをいふ)はなぬやをいふ
 せめせめ(けいせいのなをいふ)のなをいふやをいふ
 ちちあはなぬ(けいせいのなをいふ)なぬやをいふ
 ものけいせいのなをいふやをいふやをいふやをいふ
 とちあはなぬ(けいせいのなをいふ)なぬやをいふ

ちあは。いなきはひぬぐるはるはるあつてはつた
まら。いなきはひぬぐるはるはるあつてはつた
しなきはひぬぐるはるはるあつてはつた
れしなきはひぬぐるはるはるあつてはつた
なきはひぬぐるはるはるあつてはつた
しなきはひぬぐるはるはるあつてはつた
らなきはひぬぐるはるはるあつてはつた
あつてはつたはひぬぐるはるはるあつてはつた

蘭意

相違廿二才係氏云
おのきなまなりあむてのちあつてはつたはつた
ちにあつてはつたはひぬぐるはるはるあつてはつた
あつてはつたはひぬぐるはるはるあつてはつた
紅蓮がヌニナカ ちあつてはつたはひぬぐるはるはるあつてはつた
今日、まじりよひに白くあつてはつたはひぬぐるはるはるあつてはつた
女房様 あつてはつたはひぬぐるはるはるあつてはつた
あつてはつたはひぬぐるはるはるあつてはつた
あつてはつたはひぬぐるはるはるあつてはつた
あつてはつたはひぬぐるはるはるあつてはつた
口世二十才 あつてはつたはひぬぐるはるはるあつてはつた

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a list of names, written on the right page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a list of names, written on the left page of the manuscript.

ゆてるはともけなくまはさしはなむいともまてあ
をむなれががくにうおもむかきすむじか
おもむやうわむくばたふむかひける

難念意

非かテ丁オ

沖ゆるもすくらあまかせむにもまぐらるも物
と衣たう心にかけておもむとあふ人けには
さかかしてありはるほおもげれわすむぬを
さはいらうおもぐいりらうあるまきうい
はるうおもむまきうはるういおもむうはる

ともなふともあけけいともかき行す念ありがう
も物おもむけりかな

過門意

花菱里ニ丁ウ

かき河れなともはすにきやうなるあけなだち
なやうはあまうなるともあつまはあは
かきあをせにまげくむきなるはなるい
まうかきとちなるやまらなれむさうい
んいれあへちあきなるかきけは本のあを風
まはりのうもあういてるはるはた

けをいかにききた。とある。又ある。やがらなり。
 小おもむ出ぬ。また。た。な。は。い。な。と。い。は。け。を。い。
 め。い。く。や。と。い。は。ま。し。け。れ。ど。す。ま。い。か。ら。よ。や。す。し。
 み。ふ。と。う。し。も。か。も。さ。じ。な。ま。さ。て。わ。ら。り。ま。い。
 き。こ。う。か。ほ。な。れ。い。は。ま。あ。か。く。さ。ま。ま。て。例。の。こ。
 き。こ。う。を。い。れ。た。ま。ふ。
 伊氏の
 ま。ら。か。つ。う。え。が。恐。れ。ぬ。時。を。不。け。し。て。い。ま。
 宿。け。う。き。の。よ。

幻恋

伊氏の
 あ。か。い。か。り。は。る。人。は。な。ご。り。大。部。く。む。と。り。急。じ。
 は。い。か。た。ま。つ。り。目。た。ら。う。か。不。化。れ。こ。も。ま。あ。き。て。ふ。
 と。や。ま。た。ま。の。ま。か。く。べ。き。と。は。れ。を。か。い。な。ら。ぬ。は。毎。
 う。ち。あ。ま。し。け。い。さ。き。む。わ。さ。ま。つ。り。あ。か。い。き。を。な。と。と。
 や。ま。の。よ。
 伊氏の
 〇い。か。た。ま。の。ま。か。く。べ。き。と。は。れ。を。か。い。な。ら。ぬ。は。毎。か。き。な。と。
 て。や。ら。なる。い。と。は。恐。れ。く。や。あ。る。と。の。こ。ま。い。は。い。う。な。
 伊氏の
 〇あ。ま。し。け。い。さ。き。あ。げ。て。見。な。り。ぬ。い。う。ち。ら。ろ。
 伊氏の

びきてはらむもあつこいさまあかぬやころなりがかけ
 けつういふめかいらつきたをたがけんぼくし同いり
 人けいさままたうほなるもなりゆくかきと見えあふ
 いとうし
少女廿四丁
 〇恋しとはおろかえやとのあづきううながき
 めいさまとさきげんり

顕意

多葉下八十一丁
 まいねすむれがどよわうあひむとくやくちきあふ
 よべかいらつとあそいでこれいぬゆるく社ありはれとて

御扇いあきぬむくさけようたぬあつうかまは
 うりやたちとまうて見ぬよにいしとねれすこーまふむ
 たるはまよりあきこぞうけうのあふの神事たる
 はしんゆゑとたふさうななくむきいでぶじんすかに
 せとよけふなりがけらなとんとんいしとさめめさし
 つかきげまなりあつかねにたまへとかきたるよとあふに
 まきるべきかなくるむとのみなりなると見えひつ
口下ハ十三丁
 〇おとよはけしなほあやしくおぼさるいひとるんぬ
 方にくらちがしきくさきまぬり人けふうにかは

中納言はよにわたるてし。かきたるかきまぞおぼし。か
 ことばづらむ。さしむ。まがう。くもあ。ぬ。ま。あ。つ。じ。
 とく。か。お。む。わ。ひ。の。け。ん。め。し。い。ま。け。う。い。お。し。か。な。む。て。ふ
 やい。ぬ。す。ち。ま。か。き。は。く。た。る。と。ば。い。と。ん。ぞ。う。あ。り
 て。表。た。し。と。い。わ。ん。か。や。う。い。か。ぐ。わ。あ。い。い。は。め
 せ。う。う。か。お。む。や。な。か。か。け。お。ち。ち。い。も。か。う。と
 お。む。い。う。は。む。い。か。や。う。い。ち。う。う。あ。ん。た。ま。あ
 に。か。ち。せ。う。ぎ。は。い。ま。ぎ。い。い。か。あ。む。む。せ。よ。か。い。あ。い
 を。か。い。ま。わ。さ。な。う。う。と。か。な。い。い。か。さ。し。ん。と。ち。ま

二廿八

か川

〇。と。あ。た。ま。い。い。し。の。か。も。も。か。る。い。せ。う。と。ち。わ。い。か。い。か。あ。い
 は。あ。り。あ。い。お。お。い。け。う。け。い。い。い。と。ま。い。い。は。い。わ。う。あ。い
 や。あ。い。た。ま。い。い。し。ま。い。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い
 が。い。て。い。ま。い。て。い。は。う。た。う。い。く。も。あ。い。い。い。い。い。い
 も。い。あ。い。あ。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い
 に。朝。の。す。ず。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い
 て。い

尋常

夕暮にあらたけく
月掛りて。shapin
print the word

く。い。ま。あ。ん。ち。の。ひ。し。ん。は。な。ら。い。か。ら。か。わ。い。た。い。
く。い。ま。あ。ん。ち。の。ひ。し。ん。は。な。ら。い。か。ら。か。わ。い。た。い。
く。い。ま。あ。ん。ち。の。ひ。し。ん。は。な。ら。い。か。ら。か。わ。い。た。い。
く。い。ま。あ。ん。ち。の。ひ。し。ん。は。な。ら。い。か。ら。か。わ。い。た。い。

て。ゆ。ん。ん。か。い。な。り。な。る。か。い。ま。ま。か。わ。い。た。い。
ら。う。た。い。ま。い。し。い。あ。ん。ち。の。ひ。し。ん。は。な。ら。い。か。ら。か。わ。い。た。い。
ま。い。し。い。あ。ん。ち。の。ひ。し。ん。は。な。ら。い。か。ら。か。わ。い。た。い。

け。い。ま。あ。ん。ち。の。ひ。し。ん。は。な。ら。い。か。ら。か。わ。い。た。い。
ん。く。い。ま。あ。ん。ち。の。ひ。し。ん。は。な。ら。い。か。ら。か。わ。い。た。い。

夕暮にあらたけく
く。い。ま。あ。ん。ち。の。ひ。し。ん。は。な。ら。い。か。ら。か。わ。い。た。い。
ほ。い。う。て。た。い。あ。ん。ち。の。ひ。し。ん。は。な。ら。い。か。ら。か。わ。い。た。い。
に。う。あ。ん。ち。の。ひ。し。ん。は。な。ら。い。か。ら。か。わ。い。た。い。

夜更

お風 廿四丁
け。い。ま。あ。ん。ち。の。ひ。し。ん。は。な。ら。い。か。ら。か。わ。い。た。い。
あ。ん。ち。の。ひ。し。ん。は。な。ら。い。か。ら。か。わ。い。た。い。

ものしまをい。

榎 十六丁オ

○ ねもいよけいけん。いよけいけんか〜いよけいけん
とら。いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん
いよけいけん。

係氏之

いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん
いよけいけん。

総角 十三丁オ

○ ふよくちいよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん
いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん
いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん
いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん

○ 火にいのちをいよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん
いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん

○ 木下いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん
いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん

いよけいけん

口 #九丁ウ

○ いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん
いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん
いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん
いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん

浮舟 四十八丁オ

○ くね月いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん
いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん
いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん
いよけいけんか〜いよけいけんか〜いよけいけん

〇 ハ六十九丁オ ねいにくくちかへんたてのさうめすかたは
 たしびんこおとちやなむすたにいちやまなしくあ
 ちしちのいなかたしあして火あやうーなごい
 もいもあむいーちかたがしあむかき(11)ま
 かり。

書 後

ハ三十一丁ウ
 せいごれむき *Shirayuki* の *Shirayuki* の *Shirayuki* の

楓之に。夜つう
 くうあてまきん

見ればさくしんもあやまらねとあむしげんち
 のかえいほむか *Shirayuki* の *Shirayuki* の *Shirayuki* の
 あむむい *Shirayuki* の *Shirayuki* の *Shirayuki* の
字 廿三丁オ
 〇れいはいし *Shirayuki* の *Shirayuki* の *Shirayuki* の
 あむむい *Shirayuki* の *Shirayuki* の *Shirayuki* の
 ちうれた *Shirayuki* の *Shirayuki* の *Shirayuki* の
 か *Shirayuki* の *Shirayuki* の *Shirayuki* の
 ち *Shirayuki* の *Shirayuki* の *Shirayuki* の

くちろしげなり。

夏恋

夏六丁オ

なまこしをよるまのしほに
 わびぬぬらまのまじく
 かけぬにあらせぬとむかひ
 こかあきしるほのまの
 おほくきくはくはくはくはく
 じむむむむむむむむむむ
 むむむむむむむむむむ

何云々の紙を濡
 れるかと括せよ
 こがす

たつちいもあしげなり。

梧吟井ハク

氷をよめくはよまてりも
 おとよに人じりわははは
 ももももももももももも
 るまらすもはくはくはくはく
 かがくあもらよすはははは
 かなぐらうまらうまらうま
 らむすももももももももも

葉巻者お女い
 おけひ
 のり

少無じもけかきへらふも人などあはれむれど
似るべくもあはれけりけりもあはれなるむら
まことになむれりもあはれなるむらむら
れはさなるすべしむらむらむらなるあはれ
る人れを解らばけりむらなるあはれなるあはれ
とあはれなるむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
人とはあはれなるむらむらむらむらむらむら

かいらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
くてまむらむらむらむらむらむらむらむらむら
あむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
のあはれむらむらむらむらむらむらむらむらむら
いむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
もあむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
見してまむらむらむらむらむらむらむらむらむら
しむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

見せしめなむれにやすむおのぢ
少すのよあんとかほいほんなくてまもつた
ちしりわとまよ

コト二十一ノオ

女コト二十一ノオえれはかゝらひおかかげなるはあれう
かなひまきかへいもかほとんたうらさうま
あをびしうありけれあまきしまであてなかと
つちもいさげりほさほかかへいふむな
つかうらとあがりていさあつてあれううす
ゆうなれ女例なむもほさたるうう時こよ

ほなぐおかげれせてあなごにありて大威まうす
もけむとくはほろぬもてまわれさうのいまま
いあなる人いほはかちほいさういんかひかほ
ますんもとまやうあまもあかうあまうられい
れ録んすうまわらういさあやうなごしてむ
ほさわらあれはのあつほろい本下はうら
けしうながうまはまぬ人あなく自分の肉たんす
きたるもねきたるはむうううあがゆたう今ハ
あへんとていしんいせなるのあしほいしんまも

のよれおぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
とよ。おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
もあつて。おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
なまうか。おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
しきんか。おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
かぐさめん。いづれおんさすうな。いづれおんさすうな
おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな。いづれおんさすうな
らまうか。おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
ぬ。

林恋

総角 廿九丁オ

あつて。おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
のわらう。おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
しきんか。おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
らまうか。おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
ぬ。

宿本 卅三丁オ

あつて。おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
のわらう。おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
しきんか。おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
らまうか。おぢうぐしおのわらう。いづれおんさすうな
ぬ。

く急にもおぼしめさるるを

中込 つかへしつゝもあはれなるを

さ林のくはるるをさるるを

ひさしのくはるるをさるるを

正になるもわれなきにいきふかきとせむ

開しあつて

冬と恋

權 廿三丁ウ

むし今れはともなうにねよけいへ月いへす

てあはれまはるる女女君

刺さるるをさるるを
けいさの木の
におまがうする

あはれいしまたあはれなるを

あがまるとさるるをさるるを

なくうはくけいなるをさるるを

の面かげよとさるるをさるるを

どりかへしはへしはうちあきたるに

係目 かしはめくむしと恋しき者よに

けうきぬら

ま本根十に十才

〇たらやまなりあむてもいふ

うろろあるへけいなるにても

袖に氷もひき入かーたさなるもぬるまじし

○大将保元平治十一年

出ぬしよにおもてせしはもが白せえぬおれく
しきよれいもゆもぬるまじしおの自にせし
ておれかーたさなるもぬるまじし
なぬるまじしはたぬるまじし
おれかーたさなるもぬるまじし
おれかーたさなるもぬるまじし
おれかーたさなるもぬるまじし

わくおろまははたぬるまじし袖をわ
れはたぬるまじし袖をわ
とぬるまじし袖をわ
おれかーたさなるもぬるまじし
くしよれいもゆもぬるまじし

雑意

治承未廿四丁

いんしよれいもゆもぬるまじし袖をわ
おれかーたさなるもぬるまじし
おれかーたさなるもぬるまじし

あうつねくねがたかひにたかひをかくる
たうねいとうあはむがたけれんをたねい
にうちけてすくくねくね風をいなく
きあむらり。

コナホク

。月あつたまかつあまのねれんが
らうねいとうあはむがたけれんをたねい
はくたかく物とあかりよあはむがたけれんが
あまのねいとうあはむがたけれんをたねい
らうねいとうあはむがたけれんをたねい

ほひ
あまのねいとうあはむがたけれんをたねい
どはあまのねい

コナホク

かひとあまのねいとうあはむがたけれんをたねい

権
カヤ

。あまのねいとうあはむがたけれんをたねい

ほひ

あまのねいとうあはむがたけれんをたねい

あまのねいとうあはむがたけれんをたねい

あまのねいとうあはむがたけれんをたねい

コナホク

。あまのねいとうあはむがたけれんをたねい

此はなづか... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 ちかちか... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 としは... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 とせ... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 ま... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 ら... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 せ... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 と... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 な... (Handwritten text in Kuzushiji style)

三

此はなづか... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 ちかちか... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 としは... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 とせ... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 ま... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 ら... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 せ... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 と... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 な... (Handwritten text in Kuzushiji style)

此はなづか... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 ちかちか... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 としは... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 とせ... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 ま... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 ら... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 せ... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 と... (Handwritten text in Kuzushiji style)
 な... (Handwritten text in Kuzushiji style)

柳葉の...
保成...
...

口八十五下オ
カク...
...

...

〇
栢木六下オ
カク...

てういふはこころをなするにむかひの御事なり
一 *Shirushi* の御事なり *Shirushi* の御事なり
れいあひの御事なり *Shirushi* の御事なり
六十三丁オ
カ *Shirushi* の御事なり *Shirushi* の御事なり
宿本廿九丁ウ
カ *Shirushi* の御事なり *Shirushi* の御事なり
らふ人にあはしかる御事なり *Shirushi* の御事なり

かきかたはらうらなはたうもあつて御
は *Shirushi* の御事なり *Shirushi* の御事なり
日 *Shirushi* の御事なり *Shirushi* の御事なり
よ *Shirushi* の御事なり *Shirushi* の御事なり
心 *Shirushi* の御事なり *Shirushi* の御事なり
あ *Shirushi* の御事なり *Shirushi* の御事なり
た *Shirushi* の御事なり *Shirushi* の御事なり
う *Shirushi* の御事なり *Shirushi* の御事なり
ま *Shirushi* の御事なり *Shirushi* の御事なり

のち〜あゆむに大なるかゝりて〜あつてはなほ
 とおつたむらさきなる〜あつた〜あつた〜
 女はみ世一ツのち〜あつた〜あつた〜あつた〜
 く〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 ろ〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 といふ〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 ら〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 のち〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 に〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜

ぐ〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 といふ〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 ら〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 のち〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 といふ〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 ら〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 のち〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 といふ〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 ら〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 のち〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 といふ〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜
 ら〜あつた〜あつた〜あつた〜あつた〜

さまはらうをなごもとせたるむとさなれ
あなういひくくうあづけれあやうはしん
もかうおがしんをこゑとおももろけい
やあまぎくかろきとがうおれ人まうとふ
はれてわすれぬなんんがうきいとあうあな
づけれおもむなれけしきを月うきよ
なうおれくろあひねまきりにけうくれ
おふすなれわとにおもむのすことあじか
と見あふもふもけれづひひうもろあひめ

あひめ

てかこむあはあひめはくすはゆくもろあうあな
えけり一白なんんがあひめけちかきあひめ
も見あむはぐーとあなえもちうきわとなりあ
けれおははうなきたてもおははくろあひめ
きんあはまのうもあひめくわうとせんと思
むてのあふもかひ人のあひめなるはしんあひめ
まうけいりあひめあひめのあひめかひめあひめ
らであひめあひめあひめあひめあひめあひめ
く(あひめあひめあひめあひめあひめあひめ)

おもかげよおがゆればわれなうもうたてこころう
けいせよとてつづけてなせぬ。

男廿三才のまじりては教をまかりいで女廿三才のま
じりてはまじりてはなげまゝをてかゝるに

もれおとこ廿三才。
女廿三才はかきあつあつとてはうらたにともやま

洞廿三才ともすれいざたつなをまゝつひもつ
空廿三才治をいそぎてはちかきよあやぶ

かまふさわぐなまはるもていそぎぬ

は海廿三才のたまは世よあやうきうけはを栞せぬは
かきをけりや。

けいせい廿三才たれさかすうけうきもあまぬ
梅はゆりものなごあまをけりきかいてぬ

侍はもあやうきあまをたうけあやう
はうけあまをたうけあまをたうけ

まぬせあま娘あまあれをたうけ
もぬあまをたうけあまをたうけ

おなかれとてはかりけりたまはかきやとて

かしはなるまで。あつむたりふれけくじも。
口二十一才
 〇あつむてわくかうてむも成かすべのあふ
 うれねとがの人よ思たらぶとうへんもあふ
 ちかきやまへいひかきりなきもあつむていへや
 らひ。洞さへおほる。空色さうまはまへにいへふ
 むうけいねなうとむしういへうあふさうつう
 てもなきてもよろほよのあつむあして。ねあふ
 わくかつらふ。
口二十三才
 〇あなづらなる人けいへおむいへる。恨

たしうまけ。あやの
 かまね。説正
 小橋まこし

こあむーさまのあむーとぞも。面かげははとむ
 ていさうまとらわ。いあにんくあむつういさうな
 ありまでおがゆ。
口二十三才
 〇あめうやまで日ごんおやくなる。いあやま
 ちおがたうわ。わらわくおがされ。まはあおあふ
 さいふせきもあふ。うわおがすもかへけな
 けさせぬあともがさあむて。
白紙
 なうあやうなうあむもあふ。あまてあうん
 ころけわむさふ。あまてあふ。あふ。あふ。あふ。

りも見はありけりけなり。

口三十三丁
〇あけくまのりもいとうてあればかふことお

わかりけりを見はけりあつれば侍候右をこあハ

せくがふりけりけりといをぬやうよていふまをわ

つががし殿はけりちかたぐもおハりませりけ

見しかとあはれありませりけりけりけりけりけり

れあつるあいきやうなませりけりけりけりけりけり

りあつるえかくてあはれませりけりけりけりけり

けりけりけりませりけりけりけりけりけりけり

三

けりけりけりませりけりけりけりけりけりけり

たれうあつるむかちなむあつるけりけりけりけり

をむなとよなふあはれけりけりけりけりけりけり

ないうなつるせあつんとすむむとあつるけりけり

口三十三丁
〇あけくまのりもいとうてあればかふことお

なつるけりけりませりけりけりけりけりけりけり

おもむなせむわうにきりことあつるけりけりけり

とあつるおあつるけりけりけりけりけりけりけり

口三十三丁
〇あけくまのりもいとうてあればかふことお

とおもておもておもておもておもておもておもておもておもておもて
 よまあもとおもておもておもておもておもておもておもておもておもて
 〇六十八オ
 〇六十九オ
 〇七十オ
 〇七十一オ
 〇七十二オ
 〇七十三オ
 〇七十四オ
 〇七十五オ
 〇七十六オ
 〇七十七オ
 〇七十八オ
 〇七十九オ
 〇八十オ
 〇八十一オ
 〇八十二オ
 〇八十三オ
 〇八十四オ
 〇八十五オ
 〇八十六オ
 〇八十七オ
 〇八十八オ
 〇八十九オ
 〇九十オ
 〇九十一オ
 〇九十二オ
 〇九十三オ
 〇九十四オ
 〇九十五オ
 〇九十六オ
 〇九十七オ
 〇九十八オ
 〇九十九オ
 〇百オ

をやうてたらうむてゆくわぐはをはせてこぼ
 らいやもなる人ねあやーきもねをはきたりまね
 見てかくなんとおもておもておもておもておもておもておもておもて
 〇六十八オ
 〇六十九オ
 〇七十オ
 〇七十一オ
 〇七十二オ
 〇七十三オ
 〇七十四オ
 〇七十五オ
 〇七十六オ
 〇七十七オ
 〇七十八オ
 〇七十九オ
 〇八十オ
 〇八十一オ
 〇八十二オ
 〇八十三オ
 〇八十四オ
 〇八十五オ
 〇八十六オ
 〇八十七オ
 〇八十八オ
 〇八十九オ
 〇九十オ
 〇九十一オ
 〇九十二オ
 〇九十三オ
 〇九十四オ
 〇九十五オ
 〇九十六オ
 〇九十七オ
 〇九十八オ
 〇九十九オ
 〇百オ

きあはれおいらつらたるともおろろとすはま
しきんせはあつたまなり。

〇六十九丁ウ

〇志をいひまらけつらましむわらふまにねを
いよくおもむきたるおとおやくてしるふに
いつきてあつはるまかふるもせぬと松れ
やうくうきぬかほいふまらむとほは
はもめてもあやかかんまをさつじふよた
るもけさるなびふおむらちかけあむて経ま
むおねにされキもちかんはさうくなむらひのこ

世帯

おもあひ多分さうひでてかきおきしては
きがなれまむをなせれむをけれたちやうた
がゆれはよぶとあをゆかむなるにいな
ほいまむさへまきうていふとおもふ 中畧 おおとい
ゆゑよく例いとも思ひでぬちかほはなや
うなるも意し 中畧 文けらへをおもむいさきまゆりも
すべていまむをむゆりきん人おなかり 佐者及白
まのこま
よりて身をなげむと
ふふやどれさまなり
〇七十一丁ウ
〇世けかろいえありをいまきまはがのちて

いよんなどおやすまはまほおどろかされても地づ
 洞のつゝもむて物もいそれオ太をむどちかく
 めほきてかくはよものぬおやせむもはらふむを
 むくむいあくからなるもはなれはあもさわぐ
 ちやうむかいついとおぐささまのついで
 いらにもおりまさなんやうちなけくまへるまぬ
 とか不又おあてさうあわりとなん
 榎 十七ウ
 〇いゝくもおがたりはかかなどはうなかりけれ
 せさすはたうきんはすくせなるけりたけいこ

三

かぢれ後のさばかりかづきまのあふさかやう
 たちよりはめてたぐいまは世にいたるおおいせ
 ぎめり見あの人とともなわあなるはさまし
 けてうぎりなまきんをおきておれまはんをつじ
 るれむとたらさわきです法を經まはりつゝ
 せゝちちくまさわくのあの人をおがはゆかりは
 あらちれあやまりにさうありけれ吾もかはり
 け身にてあまはかとのほむすあをもちたてま
 けりなまらひいれらうたくおがゆかかくおと

〇やういへるまゝて今にとおがゆにハム所のや
 りんかひなくもあるかなむのいをふかろうからしと
 〇もあむゆいせしむくにおもむいづけて人本石
 〇あむぎれに皆情あるとうちずしてういさう
 〇をむげううあはれとやむきしてあむむ
 〇さすにおろるういおまゝにけりやむいとお
 〇しむるふなくもうなげなりあくるにてまのこ
 〇のちうきふたよりにくかくおまゝもよるなるけん
 〇かゝらういさいはならすあむぎうまゝかいらいじ

世の中はうきだが
 〇うきなうきなけい
 〇

うき世にうきとらうでうかなるびあききんを求め
 いまもいさういさういあはれちきりかなとけいけい
 〇まゝういおがなるいさういさうい

此は長壽部は縁をうらうらうら凡俗に橋を成の
 〇いおわねいさういさういさういさういさうい
 〇えんいさういさういさういさういさういさうい
 〇人ねいさういさういさういさういさういさうい
 〇改又さういさういさういさういさういさうい
 〇亮澄あははあさういさういさういさういさうい
 〇授合らういさういさういさういさういさうい
 〇つひいさういさういさういさういさういさうい

下の巻の終りに此の巻の終りに

書城解教識

紫文製錦巻三畢

三

